左京一条二坊十六坪の調査
ー第472次

1　調査の概要

平城第472次は、奈良市法華寺町内での個人住宅新築にともなう発掘調査である。調査地は左京一条二坊十六坪にあたり、コナベ古墳の南西、木取山古墳北側の周濠想定位置の外側である。調査面積は28㎡で、５月31日に調査を開始し、６月４日に終了した。

2　基本層序

調査区の基本層序は地表から、盛土約10㎝、旧耕作土約15㎝、水田床土約25㎝、黄色粘土層の順であり、黄色粘土層の上面で遺構を検出した。この黄色粘土層は西から東に向かってなだらかに傾斜するため、遺構検出面の標高は西部で71.3m、東部で71.1mである。土層確認のために部分的に掘り下げた部分では、黄色粘土層上面から約５㎝下で橙色砂礫土層を確認した。黄色粘土層および橙色砂礫土層は遺物を含まないため、地山と考えられる。

3　検出遺構

SB9470　調査区を横断する掘立柱の柱穴３基分を検出した(図264)。東西方向に並び、間隔が東から約2.4m（８尺）と約3.0m（10尺）であるため、南北棟建物の妻と考えられる。柱穴掘方の平面形は一辺１m程度の隅丸方形を呈する。西側２基では抜取穴を確認し、東側１基では柱痕跡を確認した。

SD9471　調査区中央東寄りで検出した南北溝。幅約85㎝、深さは30㎝である。瓦や須恵器、土師器などの遺物を多数包含するが、奈良時代後半より新しいものを含まないため、奈良時代の溝と考えられる。

SP9486　SD9741の東岸で検出した柱穴。西半分はSD9741と、東北部は土坑と重複し、それらより古い。掘方は一辺が１m程の隅丸方形を呈し、内部に抜取穴をもつ。

4　出土遺物

土器　土器の大部分はSD9471出土のものであり、古墳時代から奈良時代後半にかけての須恵器と土師器、埴輪が出土した。古墳時代のものは少量で、土師器の甕、須恵器の杯等があり、大部分は奈良時代の土師器（杯･壺等）や須恵器（杯・壺・甕等）である。

瓦磚類　軒瓦はSD9471から出土した6301Ｃの１点のみである。丸瓦片は13点（1.710kg）、平瓦片は102点（6.549kg）が出土した。

5　まとめ

本調査で検出したSB9470は東西方向の柱列のみであるが、建物遺構と解釈した。この場合、東の１間は建物の廂に相当すると考えておく。また、多くの遺物が出土した南北溝SD9471が、SB9470およびSP9486の柱穴より新しいことから、検出した主な遺構はすべて奈良時代のものであろう。なお、この溝は現状で想定される条坊側溝や坪境側溝には該当しない。　（中村亜希子）

図263　第472次調査区位置図　1：5000

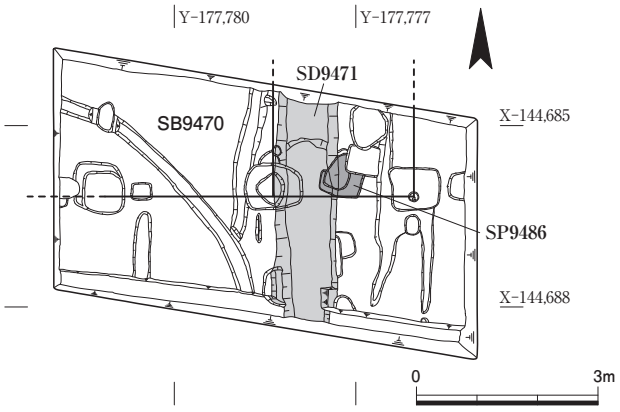

図264　第472次調査遺構平面図　1：125